

諦 崇 寺 報

諦 崇 寺 発 行
 藤 井 崇 文 編 集
 〒631-0065
 奈 良 市 鳥 見 町
 2丁 目 28-10
 0742 (37) 2569
 taisouji.jp



オバマ大統領が 広島を訪れた意味

平成28年5月27日、アメリカオバマ大統領が広島を訪れました。その意味を考えています。

報道は「原爆資料館を見学した」5分の予定が17分のスピーチとなった」「直接に謝罪する言葉はなかった」「被爆者の方と抱擁を交わした」などでした。けれども、これらは「説明」であって「意味」ではありません。観念的な言い方になります。対象とする何かについての「説明」とその何かが内包する「意味」とでは、ちょっと違う気がします。それでは「意味」はどこにあるのでしょうか。

私は本当の「意味」はむしろ、これから創造していくものだろうと思います。「オバマ大統領が広島を訪れたことがきつかけで...」と何か良い方向へと向かうのか、「オバマ大統領が広島を訪れたが何も変わらなかった」となってしまうのか。その「意味」は私たちのこれからにかかっている、誰かの問題ではなくて、私たちに突き付けられた問題だと思えます。歴史と向き合う、未来に責任を持つ、自分と世界を人任せにしないというのは、誰かに「説明」を求めるばかりではななく、自分で「意味」を考えて、行動することだと思えます。

あしがき

「毎朝、仏さまを拝んだほうが良いですか？」という質問に対するお洒落な答えを説明しました。「それは「毎朝、妻に「愛してる」と言ったほうが良いですか？」と同じ質問ですよ」。

皆々自身の仏さまや奥さまとの関係によりけりです。毎朝、拝んだり、愛してると言ったほうが良いでしょうか、拝まなかったり、言わなかったりしたらダメと私はお答えすることはできません。

崇文 拝

熊本震災ボランティア

5月23日〜27日、熊本地震の災害ボランティアに参加しました。5月23日(月)午後5時半、泉大津港から阪九フェリーで出発。昨年就航したばかりの船で、2等客室の枕元が区切られていて快適でした。

5月24日(火)午前6時半、新門司港で下船、高速道路で熊本へ。午前9時半、熊本城の近くに設置されたボランティアセンターにて作業内容のマッチング。作業を割り振る方に「多くのボランティアが1度行ったら次はちょっと...」という場所ですが大丈夫ですか。」と尋ねられ、「ぜひ行きます」と答えた先は郊外の仮設ゴミ置き場。ジャンボタクシーに乗って移動。



正午、現場に到着すると、見渡す限りのゴミの山、そして臭いが鼻をつきます。道路の反対側は益城町のゴミ置き場。近くの公園ではグレートボールをされる方の姿もあり、日常と非日常が交錯していました。50人程のボランティアが10人ずつの班に分かれ、テレビをメーカーごとに分別して運びます。残りのが少なくなっただろうと、次々とトラックで廃棄物が搬入されてきて、炎天下、体力的にも精神的にもキツイ作業でした。午後3時、作業を終えて再びジャンボタクシーでボランティアセンターへと戻り、

作業の結果報告。移動販売のお店「オリジナルPop」とも「さんがかき氷を振舞ってくれたさり、生き返る思いでした。午後6時、熊本市から50キロほど離れた福岡県のグリーンピア八女に到着。宿泊した「グリーンピア」は2段ベッドが4台、一室で1万3千円。地震の影響でお客さんが減っている状況の中、こういう場所を避難所にしたらどうかと考えました。

25日(水)午前6時、宿を出発。地震が起る前から熊本市は渋滞がひどかったらしく、高速道路の出入り口や熊本城周辺の中心部ではなかなか車が動きません。午前9時、ボランティア受付。小雨で雷注意報が出ていたので「昨日の場所ではないだろう」と想像したのですが、同じ現場を割り振ってもらいました。この日のボランティアは10人、廃棄された冷蔵庫をメーカーごとに分別します。この作業にどんな意味があるのか不明ですが、とにかく運ぶのみです！



地面はぬかるんでいて、温度が高くて、膨大なゴミと膨大な作業量、途方もないとはこのことだと絶望の思いが心をかすめます。「これはボランティアに頼っているだけでは限界がある。もっと人とお金を投入しないとどうにもならない。」と地震から1ヶ月経った状況にもどかしさを覚えました。

26日(木)午前6時、宿を出発。午前中は被害が大きかった益城町

を尋ねました。遠くから眺めると東日本大震災と違って津波を受けておらず、一見のどかな風景ですが、しかし近付いてみると倒壊した家屋の大変な様子が目に入ります。中心部の集落は新しい家屋も含めて、ほぼ全てが壊れていました。人手や重機が足りないのか、行政による全壊・半壊の判定を待っているのか、どのお宅も手付かずのままです。若い方は動機に出ているのでしょ、年配の方々が自宅から荷物を運び出されています。



益城町を車で走ってみると、田んぼや畑の3〜4割くらいが作付けされていきました。「頑張っただけじゃあんだな」という思いと「大変な時期がまだまだ続くのだろうな」という思いを持ちました。下陳地区では500メートルに渡って地面のズレがありました。午後からは、熊本県合志市の国立ハンセン病療養所、菊池恵楓園へ向って、資料館を見学してから納骨堂でお経をお唱えしました。建物に被害は無いようでしたが、慰霊碑が倒壊していました。



午後5時半に新門司港を出発し、翌27日に泉大津港へ帰りました。